2019年度　【　就労・日中　】支援部会報告

部会テーマ【　連携、ネットワークづくりに何が必要か　】

部会開催	○世話役会議（6/26） ●第１回部会（7/29）　参加者　30名 ・昨年度の振り返り「地域生活を支える日中事業所の支援」 ・今年度テーマと年間計画(案) ・年間テーマ「連携、ネットワークづくりに何が必要か」 ・テーマ「事業者間連携の実際」
	○世話役会議（10/16） ●第２回部会（12/6）　参加者　20名 ・前回部会の内容の確認 ・テーマ「ネットワークづくりと事業所の役割について考える」 ・各事例を使い、エコマップを作成
	●全体研修会（2/6）
テーマについて深めた点	・他事業所との連携について 連携の必要性を感じているが、どの事業所も職員体制や時間に余裕がないため、職員が外部の研修や会議に参加して、他事業所とつながりを持つ機会が少ない。 利用者や家族の問題を一事業所で抱え込んでしまっている現状がある。家族の高齢化による介護力低下に関わる問題から、家族支援や本人支援の問題が日中事業所に持ち込まれ、どのように対応して良いか困っている。 ・利用者を中心にしたチーム支援 利用者の障がい状況や生活状況が多様化しており、困難ケースが増えている。利用者が複数のサービスを利用しているため、お互いの日常的な情報共有や必要な場合はケース会議の実施も求められている。 日中だけでは、利用者の生活の様子が分からないため、利用者の生活全体に目を向けたチーム支援が大事である。
部会のまとめ	・職員研修やケース会議を通して、他事業所と顔が見える関係をつくる 職員研修は、小規模の事業所ほど実施は難しい状況にあるため、自立支援協議会等の研修も活用してゆく。そういった研修の機会や複数事業所とのケース会議等を通して、顔が見える関係から連携につながってゆくことを大事にする。 ・利用者を中心にしたチーム支援を行ってゆく 家族・利用者の高齢化や障がいの重度化等による困難ケースは、1事業が支援するだけでなく、市の相談機関や関係事業所が一緒に考えることが必要である。利用者に関わっている事業所とのケース会議によって、利用者の生活の全体を掴みながら、お互いの機能を生かしたチーム支援につなげてゆくことが必要である。

2019年度　【　入所・グループホーム　】支援部会報告

部会テーマ【 障がい者を支える事業所間の連携～暮らしの場の役割～ 】

部会開催	○世話役会議（6/13） ●第１回部会（7/17）　参加者　15名 ・前年度本会議の報告 ・今年度の部会テーマ、年間計画の検討 ・意見交換
	○世話役会議（9/24） ●第２回部会（10/17 ）　参加者　12名 ・困難事例の報告 ・上記についての意見交換
	●全体研修会（2/6）
	○世話役会議（1/28） ●第３回部会（2/18 ）　参加者　11名 ・課題について意見交換 ・部会のまとめ
テーマについて深めた点	・世話人の確保と育成の問題 世話人不足が深刻化している上に定着も困難になっており、人材不足による世話人の過重労働が問題となっている。支援の向上にむけて、世話人研修の必要性がある。 ・困難ケースについて 借金を繰り返す、交友関係でトラブルになるなど利用者の問題が、ＧＨに持ち込まれることが多いが、GH だけに対応を求められても困難である。 ・暮らしの場の不足 利用者の高齢化による医療対応や身体介護が必要になっているが、現状では十分対応できていない。また、長期入院者が退院後に必要なケアを受けられる暮らしの場の問題があるなど、利用者の課題が多様化している。 ・経済性の問題 障がい年金と家族からの補填や生活保護によって生活している利用者が多いが、買い物 や余暇の過ごし方をみても余裕のない生活になっている。
部会のまとめ	○事業所間連携 ・困難ケースについては、日中事業所や他の事業所とのケース会議を行うなど、事業所間が連携して取り組むことが必要。 ・人材不足が GH を増設できない要因になっており、世話人の労働条件の改善にむけた基本報酬の改定が求められる。また、ＧＨ部会では引き続き世話人研修を行い、事業所が共同して支援の質の向上を図ってゆく。 ○高齢化への対応 利用者の高齢化について、従来の支援とは異なる支援の必要が生じている。介護施設との連携も求められるが、高齢障がい者が安心して生活できる施設が求められている。 一方で、長期入院からの地域移行や一人暮らしにむけて、段階的な支援が必要である。 ○経済的に自立できる制度 家族からの援助や生活保護に頼らず、本人が自立的に生活できる水準に障がい年金を引き上げることが必要である。

2019年度　【　地域生活　】支援部会報告

部会テーマ【　障がい者を支える事業所間の連携　】

部会開催	○世話役会議（5/21・6/11） ●第１回部会（8/6）　参加者　17名 ・部会の参加率を上げるには ・事業所間の連携でしてみたいこと ・各事業所での困り事をアンケートに記入、意見交換。
	○世話役会議（10/8） ●第２回部会（11/15）　参加者　15名 ・事例検討「要求過多で複数の事業所が入れ替わっている利用者について」
	○世話役会議（11/15） ●第３回部会（1/25）　参加者　24名 ・研修「障がい福祉の制度について～権利擁護の観点から」 講師　大西 浩太郎氏（八尾市障がい福祉課）
	●全体研修会（2/6）
テーマについて深めた点	・事業所間の連携について 事業所、個々に困難や問題を抱え込んでいる。他事業所との交流を持ち、事例検討を通して意見交換ができる場がほしい。 ・要求過多の利用者について 介護保険ではサービス内容が明確化されているが、障がいサービスは利用者の障がいによって様々であり、内容の線引きが難しい。また、利用者が介護保険に移行する時に支援の違いに戸惑わないために、どこまで受け入れてサービスを行うのか、本人としっかり話し合い、本人にとって本当に必要な支援を検討する必要がある。 ・支援部会の参加率を上げ、連携を深める 権利擁護の研修はとても分かりやすかった。事業所の外部研修として・ヘルパーの資質向上に役立てて頂きたい、部会の参加率アップにもつながる。
部会のまとめ	・他事業所との交流の場を設けるというためにも、支援部会の参加率を上げることが必要。 ・ヘルパーの社会的地位と資質の向上、人員の確保の必要性は、毎年の課題である。 ・利用者の障がいによって多種多様なサービスに対応・支援していくために、事業所間の連携を深め、他業種間での連携も図って行くことが必要。

2019年度　【　障がい児　】支援部会報告

部会テーマ【　子どもと共につながる地域　】

<table>
<tr><td rowspan="4">部会開催</td><td colspan="2">〇世話役会議（6/26）
●第１回部会（7/5）　参加者１７名
・放課後等デイサービスにおいて、長期休暇をいかに過ごしていくか。
・重症心身障がい児・医療ケア児の受け入れについて
・　連携促進と支援の質の向上、資源不足について検討。切れ目のない支援。
・　やおっこファイル改訂について、委員会検討状況の報告。</td></tr>
<tr><td colspan="2">〇世話役会議（8/21）⇒第２回・第３回についての検討</td></tr>
<tr><td>●第２回部会（１０/１７）参加者２５名
みらい　古賀所長より
「児童虐待の現状と家族支援」
・虐待の現状と市における対応。
⇒通告のタイミングについてはどの事業所も悩みをかかえているが、まずは「みらいに相談」してみてかまわない。
・保護者への声のかけ方</td><td>●第３回部会（１０/２５）参加者１８名
保健センター保健師工藤氏、心理士南氏より
「発達課題のある幼児の発見と家庭支援」
・子育て支援各事業の機能、役割分担
・発見からの支援開始の流れ
・　虐待・ネグレクトに関する相談
⇒問題を１機関が抱え込まないようにする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">〇世話役会議（１２/１１）
●第４回部会（1/22）　参加者２０名
・「こんなことがあったらどうする？これって虐待？相談する？通告する？」というテーマにて、数事業所から事例発表をいただき、グループディスカッション。
（母の体調不良や心理状態によるネグレクト例、通報した学校との関係調整を必要とした例、みらいから利用依頼のあった例、職員の関わりが「虐待か？」と言われてしまう例等）</td></tr>
<tr><td colspan="2">●全体研修会（2/6）</td></tr>
<tr><td>テーマについて深めた点</td><td colspan="2">・問題が起きてからの情報共有になりがちであるが、平時から連携できているとよい。
・虐待かな？と思った場合に、どのレベルで相談してよいか、また親との関係が悪くなるのではないか？と悩むが、「子育てを支援する」というスタンスで、親にも声をかけ、みらい・保健センター等の関係機関に早い段階で「相談」することが大事。
・一機関で問題を抱え込まないで、かかわる機関全体で子ども・家族をフォローすることが大事。
・各事業所が、福祉関係のみならず、子育て支援各機関の役割・機能を把握し活用していくことが大事。</td></tr>
<tr><td>部会のまとめ</td><td colspan="2">・今後も、研修・グループワークを通じて、連携を深め、支援の質の向上をはかる必要がある。
・虐待等の難しいケースについても、連携が有効である。今後も虐待対応について部会で考える機会を設ける。
・やおっこファイルの普及・活用について部会のメンバーが率先して行い、切れ目のない支援に役立てていく。
・資源不足について、今後も市に提言していく。
（特に、医療ケア児の資源や、レスパイト資源について）</td></tr>
</table>

2019年度　【　精神保健　】支援部会報告

部会テーマ【　障がい者を支える事業所間の連携　】

部会開催	○世話役会議（5/15、6/26） ●第１回部会（7/3）　参加者41名 ・「日頃抱えている疑問を紐解こう」というテーマでグループワークを行い、日頃抱えている悩みや課題について共有した。
	○世話役会議（8/28、10/7） ●第２回部会（10/16）　参加者30名 ・「地域課題についての意見交換会」というテーマでグループワークを行い、地域課題に対して今後どのように取り組むことができるかなど意見を出し合いました。
	○世話役会議（8/28、9/9、10/23） ●第３回部会（11/13）　参加者41名 ・「訪問看護ステーションについて学ぶ」というテーマで訪問看護ステーションのスタッフより、訪問看護についての説明とケースの報告、連携の大切さについて共有した。
	●全体研修会（2/6）
	○世話役会議（11/20、1/29） ●第４回部会（2/12）　参加者40名 ・「地域課題についての意見交換会」というテーマでグループワークを行い、地域課題に対して実際に取り組めること、取り組めないのであればなぜ取り組めないのかと具体的に意見を出し合いました。
テーマについて深めた点	・精神保健福祉に携わる機関（行政・民間）が集まり、地域課題についての知識を深めた。また、顔の見える関係の構築の大切さと連携の大切さを各事業所と共有した。 ・数回に渡る精神保健支援部会で地域課題を抽出し、あがった地域課題に対して実際に取り組めること、取り組めないことを視覚化した。取り組むことができないのであれば、なぜ取り組むことができないのか具体的に話し合った。 ・前年度に引き続き、精神保健支援部会の一環として勉強会を行い、「障がいの理解」「社会資源の知識を深める」「事業所間連携の大切さ」についてアプローチを行った。
部会のまとめ	・引き続き、支援者間での顔の見える関係性を継続させる必要がある。また多くの機関と日々のやり取りを通じて情報交換や情報共有を行っていくことも必要である。 ・部会で抽出した課題の一部は「スタッフの教育、専門職のスキル向上が必要」「休日や夜間の居場所がない」「情報発信が少ない」「就労関係サービスの利用が長続きしない、体験期間が少ない」「相手がどんな事業所なのか知る機会がない」といったものであった。これらの課題に対してどう改善していくか引き続き検討が必要。 また、福祉サービスの算定の改正（就労系サービスの体験利用に算定が欲しい、情報提供やカンファレンスに関する算定が欲しい等）を求める声もあった。 ・勉強会の機会を増やし、精神障がいについての理解をさらに広めていくことが必要になる。